

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

## 鳥取県 石田亮彦先生から

お世話になります。広島西部さんに話はしているのですが、連絡部分と状況や支援の部分とは切り離した方がよいだらうと提案しています。現在、私が中国ブロックの専門委員長団（島根・宇津、岡山・田中、広島・西部、山口・大田・・・敬称略）だった人たちとの関わりから、島根の宇津さんに掲示板の件を依頼している状況です。宇津さんに連絡を取ったときにはメールの見られる状況にないとのことでしたので、掲示板の立ち上げには少し時間がかかるかもしれません。確定したら、それを「かわらばん」や西部さんのメールで流してもらおうと考えていますので、そのときはお手数ですが宜しくお願いします。この震災に関わって全国の仲間が（今でなくても過去でも）動いてもらうことが重要ではないかと考えます。色々ご無理を言いますが、宜しくお願いします。

## 広島西部伸也先生から——宮城県・岩手県・福島県の状況

3/22 17:32 島根・舟木先生が心配されていた宮城・伊藤先生につきましては、本日9時過ぎ、福井・谷口先生からメールが届きました。引用します。

《宮城の伊藤先生ですが大丈夫です。私が安否を尋ねるメールを送ったところ、以下の内容のメールが来ました。海岸部の生徒の家の被害はあるようですが、本人はもとより生徒は無事だとのこと。電気は割りと早く復興したそうですが、メール、ガス、水道が2～3日前まで通じていなかったとのこと。食事は登山用ガスコンロ、食後はトレペでふくという生活を家族でしていたそうです。被害の程度はわかりませんが、新学期の準備などで忙しくなるとのこと。》

伊藤先生ご本人からも本日11時過ぎメールが届きました。

《本日メールを確認致しました。連絡遅れてすみません。こちらは無事です。ご心配ありがとうございます。宮城県の山岳部の顧問の先生方とは、部分的には連絡が取れているのですが、まだ全員の状況は分からずにいます。今後状況を確認したいと思います。》

岩手・岩澤先生からも11時前メールが届きました。

《私の方は、無事でしたが11日（金）の地震の後、毎日出勤して校務に追われていました。岩手県の沿岸地区の登山部員、顧問の安否は依然はっきりしておりません。現在発表になっている死亡の方より、不明の方々のほうが4倍近くになっております。皆さんの無事を心から祈っている毎日です。こちらの方は、3月4日に内示がありましたが、今回の東日本震災の関係で人事が凍結になりました。校務分掌を組んで決裁をいただいたのが、もう一度0からです。県の方針で始業式、入学式も15日以降に足並みを揃えて行うとのこと。23年度の準備が出来ず、先生方に指示が出来ない状態です。

《このような、時期だから普段山で鍛えた体力、知恵で乗り越えたいと思っています。》

メールが届かず心配していた岩手小野寺先生からも本日15時前メールが届きました。

《ご心配掛けました。タイミング悪く、震災から本校のメールサーバーがダウンしておりました。本日復帰しメールを拝見いたしました。岩手では、ニュース報道のとおり

沿岸地区は壊滅状態です。WEBメールはまず届きません。携帯もなかなかつながらない状態です。本県の沿岸地区の顧問の先生方は大丈夫だと人づてに聞いておりますが、本人との連絡が取れていないので確実ではありません。学校行事もズレ、人事異動も凍結、県高校総体に関しては例年どおりの業務は進めていますが、大きな体育館等の施設は救援基地となっておりますので、見通しがつかない状態です。他競技との絡みや、交通・宿泊事情や復興のための県の財政等で、例年どおりの大会開催は厳しいと思われます。不自由な生活が続いておりますが、何とかやっています。》

### 8時半過ぎ、東京・中瀬先生からメールが届きました。

《東京でも、神奈川県同様に計画停電などで生徒達が登校することが出来ず、通常業務が出来ていない状態です。また、この春期休暇中の登山行動は、中止するように言われています。》

三重の岸田先生から問い合わせの「がんばれ東北」ワッペンについては、西日本では鳥取・石田、香川・玉垣、島根・宇津の先生たちが取り組みを始めつつあるところだ。

### 愛媛・藤原先生から転送されてきた福島・堀江先生のメールを掲載します。

《藤原先生 こんにちは。ご心配をおかけしております。家族ともども、無事です。現在は断水で水が出ませんが、いろいろなところから汲んできて特に不自由はありません。他の地域では水に加えて、電気やガスも出ないところもある中で、うちは恵まれている方です。地震当時、職員室にいましたが、立ってられないほどの揺れでした。

生徒の教室の方へ廊下を何とか移動しているときに廊下の両側のコンクリート柱が次々に砕けて鉄筋がむき出しになっていく様を目にした時は、正直、死ぬんじゃないかと思いました。教室を回りながら、机の下にかがんでいる生徒たちに「逃げろー」と声をかけ、他の先生方と協力して校庭に避難させ、全員の無事を確認した時には本当にホッとしました。なにしろ、生徒のいた校舎は昨年の耐震ランク調査で最低ランクのE、建て替えの必要ありと診断されていたからです。本当に校舎が倒壊しなくて良かった。

自分の担任しているクラスはちょうど調理実習中で「薄皮まんじゅう」（郡山名物）とワッフルを作っていたのですが生徒たちはちゃんと火の始末をしてエプロンに三角布姿で逃げてきてました。（男子）その後、しばらく校庭で待機させた後、一クラスずつ、1分以内で荷物を取りに行かせました。昇降口のゲタ箱はひっくり返って靴が取り出せない状況だったので、全員上履きで帰宅でした。列車が不通なため、親に迎えに来てもらわないと帰れない生徒もいましたが、21時半には全員を親御さんに引き渡すことが出来ました。生徒を誰一人怪我させることなく帰宅させることができて本当によかった。

校舎のいくつかは柱が折れ、いつ倒壊してもおかしくないほどの損傷を受けており、中に入ることができません。勿論、建て替えが必要な状況です。14日に予定していた高校入試の合格発表も中止。生徒の教室のある棟もおそらく使用不能となっておりますので、いつ生徒を学校に戻せるか、見通しが全く立たない状況です。おそらくは、校庭にプレハブ校舎を建てたのちとなると思いますが、すでに生徒から学校再開を待ち望んでいる声が寄せられています。

今回の地震による被害はまだ拡大中です。幼い子供たちや、多くの中学生、高校生も命をおとしている事を考えると胸が痛むばかりです。命拾った我々がその分までしっかり生きていかなくは思っています。お気づかしいいただきまして本当にありがとうございます。》